

再建計画には不安

チツソ 本社 新労組の要望に回答

チツソ水俣新労の沢田組合長、森副組合長は十二日午後熊本空港から下京、江頭チツソ社長らと会って水俣問題に関する四項目にわたる同労組の要望書を提出し会社側の回答を求めた。これにたいし十三日午前零時すぎ同労組に対し会社側が見解を明らかにした。

同労組の要望書は①政府認定に従い企業としての責任を十分果たし行政指導に忠実に従ってほしい②国その他公共機関の手で被害者救済の施策がとられようと、会社はその責任を自覚し、できる限りの援助、努力を将来にわたって示してほしい③今後二度とこのよう

な悲劇を繰り返すことのないよう万全の策を立ててほしい④水俣市民の世論に聞かれるような水俣での事業縮小ないしは撤退などの不安を一掃するためにも、企業が持つ社会性を明らかにし、水俣市を中心とする地域社会の発展に貢献しうるよう目下推進中の再建五方

年計画をせひとも達成してほしいの四項目。

これに対し江頭社長、吉川取締役連名による文書回答の内容は「要望書の内容はおおむね会社の考えに近い。まず①については会社もそのように考えている②については会社は従来とも要望のような考え方によってきたつもりだ。今後ともその考え方に変わりはない。組合の要望にそうよう努力することを約束する③については当然のことであり、このようなこと

が二度と発生しないよう最善を尽くす。ただ④については五方年計画の当初にかかげた通り、水俣工場は技術革新下における経済性において非常に不利な立ち場の工場であるが、水俣はチツソ発祥の地でもあり、また本社は地域社会と共存共栄の関係を永年続けてきた経緯にも思いをいたし、水俣工場再建を図ることを考えてきた。そのためにも組合も地元も全面的に協力してもらわねば計画通り進まない。これもあらかじめ説明して

きた通りである。今日まではその計画に従って精魂を傾けてきたが現在では水俣に異様な状態が出てきてわたくしは非常なショックを受けており、正直に言って地元の全面的な協力が得られるかどうか著しく不安を感じている。わたくしどもも組合の申し入れがわからないでもないが、現在に至ってその自信を失いつつある。したがっていまその約束を迫られても返事のしようがない」としている。